

## 要 旨

平成 23 年度から全面実施された小学校学習指導要領で、学級活動は、よりよい人間関係を築き、楽しい生活をつくる態度を育成することが重視された。そこで、係活動において、朝の取組や話し合い活動で思いや気付いたことを友達に伝え合うことを通して、互いを認め合ったり、学級生活を豊かにしようとしたりする子どもを育成したいと考えた。その結果、係のよさや変容、称賛や感謝、期待感、を伝え合う中で、互いを認め合う姿が見られた。また、友達のアドバイスを基に活動を考えたりする中で、学級生活を豊かにしていこうとする姿が見られた。

<キーワード> ①認め合う ②伝え合う ③学級生活を豊かにする

### 1 研究の目標

互いを認め合い、学級生活を豊かにしようとする子どもを育てるために、係活動において子ども同士がお互いのよさや変容に気付くことのできる活動の在り方を探る。

### 2 目標設定の趣旨

平成 20 年 1 月の中央教育審議会の答申で、人間関係の希薄化や好ましい人間関係が築けていないことが課題として示された。それを受けて、小学校学習指導要領の特別活動の目標に人間関係が明記され、よりよい人間関係の形成が一層重要視されるようになった。よりよい人間関係は、集団で活動する中で形成されていく。そのため、学校生活において、一人一人に集団活動のよさや喜びを感じさせることが重要であると考えた。

特別活動の学級活動に含まれる係活動の特徴は、①自分の持ち味(自分が得意だと思っていることや興味があること)を生かすことができること、②少人数の子どもの共通の目標の下、協力して学級生活をよりよくすることができること、③創意工夫により子ども自らの力で活動を広げていくことができること、と考える。自分の持ち味を生かすことができる活動を考えられることや1つの係が数人による小グループであることは、自分の意見を出しやすく、人間関係を思うように築くことができない子どもにとっても取り組みやすい。また、係活動は、自分が係の一員として学級のためのために働き掛け、他の係活動が自分たちのために働き掛ける構造をもつため、多くの集団活動が生まれる。それらの集団活動を通して、自分の持ち味が学級のためになることの喜びを感じることができる。さらに、友達のよさを感じたり協力したり創意工夫したりしながらよりよい学級を築き上げていく中で、一人ではできないことができることや、仲間意識や所属感、自他のよさや学級の高まりに気付き、集団活動のよさを感じることができることを考える。

そこで、本研究ではグループの研究テーマ、研究課題を受け、係活動を活性化させながら他者との関わりや学級生活を豊かにさせたいと考えた。持ち味を生かしながら協力して取り組むことを奨励し、さらに、お互いの活動を褒め合いアドバイスし合う場を設定したり、学級活動の時間における話し合い活動で活動を振り返り、自他の変容に気付かせお互いを褒め合う場を設定したりすることで、自他のよさを認め合い、自分たちで学級生活を豊かにしようとする子どもを育てたいと考え、本目標を設定した。

### 3 研究の仮説

係活動において、他者意識をもたせ、気付いたことや思いを伝え合う活動を行っていけば、自他のよさや変容を認め合い、集団活動のよさや喜びを感じながら、自分たちで学級生活を楽しくしたり向上させたりしようとする子どもを育てることができるであろう。

#### 4 研究方法

- (1) 気付いたことや思いを伝え合うことで、互いを認め合い学級生活を豊かにしようとする事ができる係活動についての理論研究
- (2) 係活動に関わる学級活動の授業の検証及び考察

#### 5 研究内容

- (1) 文献や先行研究を基に、他の活動を見て気付いたことや思いを伝え合う場を設定し、その有効性を明らかにする。
- (2) 学級のことを考えた係活動になるための話し合い活動を、所属校の5年生において実践し、その有効性を示す。

#### 6 研究の実際

- (1) 文献等による理論研究

よりよい人間関係は、集団で活動する中で形成されていき、人間関係を学ばせるためには、学級生活において、共通の目標をもった集団活動を取り入れることが大切であると考え。杉田は、「人間関係を学ぶためには、まず集団活動の量を増やし、質を高める」<sup>1)</sup>、また、「目標を達成するためお互いに思いやり、多様な相手と協力し合うのであって、そこで初めて多様な他者への思いやりや協力という人間関係を学ぶ」<sup>2)</sup>と、集団活動が人間関係をより豊かにすることを述べている。

集団活動の1つである係活動は、学級において、共通の目標をもった小集団の活動が基本となる。そして、係が働き掛け、学級集団が働き掛けられる関係の中で、認め合う心や学級生活を豊かにしていこうとする態度が育まれると考える。宮川は、係活動について「学級生活の充実・向上に寄与できた喜びは、自己有用感を抱かせ、集団への帰属意識を高めるなど子供の人格形成上大きな意義がある」<sup>3)</sup>と述べ、人間関係づくりと豊かな学級生活における係活動の重要性を示している。

このことから、係活動を行うことは、友達を認めながら、自分たちで学級生活を豊かにしようとする態度を育てることにつながると考える。

- (2) 研究の構想

互いを認め合い、学級生活を豊かにしようとする子どもを育てるためには、集団活動の中で、友達を見ようとしたり、気付いたことや思いを伝え合ったりすることが大切であると考えた。そこで、手立てとして朝の取組と話し合い活動を行うことにした。

ア 朝の取組

表1 「係から」と「ゴーゴーハッピータイム」の位置付け

	活動名	曜日	内 容
朝の会	係から	月～木	係活動や活動報告等
	ゴーゴーハッピータイム	金	他の係へのメッセージ書き及びメッセージカードの掲示

朝の取組では、月曜から木曜の朝の会に「係から」を、金曜日の朝の会に「ゴーゴーハッピータイム」を行うようにする(表1)。「係から」では、学級に向けて活動したり活動予定や活動内容を伝えたりする。係を働き掛ける側、学級集団を働き掛けられる側としたとき、誰しも、働き掛ける側にも働き掛けられる側にもなる(図1)。「ゴーゴーハッピータイム」では、他の係へ気付いたことをメッセージカード(ほめほめ感謝カード・要望カード・アドバイスカード)に書き、対象となる係に渡すようにさせる。ほめほめ感謝カードで、褒めたり感謝の気持ちを伝えたりさせるこ

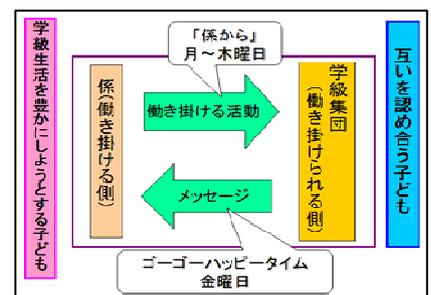


図1 朝の取組の構想

とで互いを認め合う子どもを、要望カードとアドバイスカードで、「係から」や日頃の係活動で気付いたことや思いを伝えることで学級生活を豊かにしようとする子どもを育成することができる。このメッセージカードの蓄積が、係や集団活動としての足跡となるようにさせる。

#### イ 話し合い活動

話し合い活動において、互いを認め合い、学級生活を豊かにしようとする子どもを育成するための話し合いの柱(以下柱)を設定した。

「係活動, 再出発!」の柱1「各係の成長を発表しよう。」と柱2「友達の成長をほめ合おう。」で、係活動を通しての自他の成長を確認したり褒め合ったりさせる。柱3「係活動をしていて、うれしかったり楽しかったりしたことを伝え合おう。」で、褒められたり感謝の気持ちを伝えられたりした体験を共感し、働き掛けられる側としての自己の目標を立て、事後の活動につなげさせる。これらを通して、互いを認め合うことができる(図2)。

「グレードアップ, 係活動!」では、自分たちで立てた活動計画と柱1で得た友達からのメッセージを基に、柱3で活動内容を話し合わせる。係の持ち味と友達のアドバイスやアイデアを生かした活動を考えさせることで、より学級生活を豊かにしようとする子どもを育成することができる(図3)。

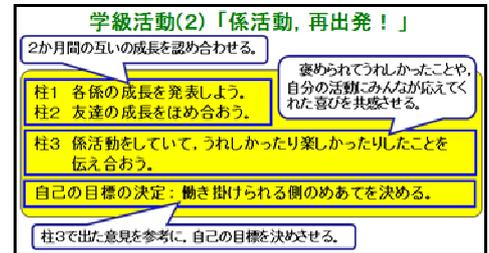


図2 「係活動, 再出発!」の話し合いの柱とねらい

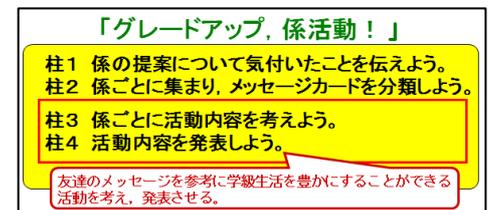


図3 「グレードアップ, 係活動!」の話し合いの柱とねらい

### (3) 検証の視点と具体的な手立て

#### ア 互いを認め合う児童の育成(視点I)

##### (ア) 朝の取組のほめほめ感謝カードを通して

褒めたり感謝の気持ちを伝えたりするほめほめ感謝カードを青色に統一する。カードは教室の背面に掲示してある対象の係のコーナーに貼らせ、全員に見えるようにさせた。

##### (イ) 話し合い活動を通して

各係の成長が分かりやすいように、話し合い活動までの活動の変容や活動内容を変えさせるきっかけを模造紙にまとめさせ、発表させた。そして、他の係のよさや成長を褒めることができる話し合いの柱を設けた。自己の目標を立てさせ、事後の活動につなげさせた。

#### イ 学級生活を豊かにする児童の育成(視点II)

##### (ア) 朝の取組のアドバイスカードと要望カード、ほめほめ感謝カードを通して

アドバイスカードを赤色に、要望カードを黄色に統一した。カードは教室の背面に掲示してある対象の係に貼らせ、全員に見えるようにさせた。受け取った係が納得して活動できるように、アドバイスカードと要望カードには、その理由を書くようにさせた。係は、メッセージカードを参考にしながら、その後の活動を話し合った。

##### (イ) 話し合い活動を通して

事前の活動として、係ごとに活動計画を立てさせ、模造紙にまとめさせた。話し合い活動では、子どもたち同士が、アドバイスや要望、学級集団からの期待を伝え合うことができる、話し合いの柱を設けた。

### (4) 手立ての実際と考察

#### ア 児童の実態

仮説を検証するために、所属校5年3組(男子21名、女子17名)において実践を行った。

5年3組の1学期の係は、係活動と当番活動が混在しており、半分以上の係が当番活動や教師の手

伝いを行っていた。創意工夫をすることが可能な係も、積極的に創意工夫をして学級生活を豊かにしていこうという意識は低く、活動を作り出す楽しみや学級生活を豊かにしたことから感じる満足感を味わうまでには至っていなかった。しかし、学級の役に立っていることが実感できたり、友達にお礼を言われたりすることで、喜びや満足感を味わう様子はうかがえた。そこで、2学期からは、係活動と当番活動を分け、創意工夫ができて学級生活を豊かにすることができる活動を係活動と位置付けて取り組ませた。さらに、係活動において、友達との関わりでお互いの気持ちや考えを伝え合い、役に立っていると実感する場や感謝される場を取り入れることが重要であると考えた。そこで、気付いたことや思いを伝え合い、役に立っているということを実感したり、感謝される喜びを感じたりすることができる場を取り入れた、朝の取組と話し合い活動を行うことにした。

イ 互いを認め合う児童の育成(視点I)

(7) 朝の取組と実際

「係から」では、係が学級集団に向けて活動したり、活動予定や活動内容を伝えたりすることで、一人一人が他の係がどんな活動を行っているのかということやどんな工夫をしているかということの共通理解が図られるようにした。また、「ゴーゴーハッピータイム」で、他の係をほめほめ感謝カードで褒めたり係に感謝の気持ちを伝えたりしてきた。

実践後、朝の取組についてのアンケートを行った。その結果、「ゴーゴーハッピータイム」があることで、他の係に対して興味をもって見るようになったと、97%（「とても思う」が50%、「思う」が47%）の子どもが回答しており、学級集団から係への関係ができたことが分かる(図4)。

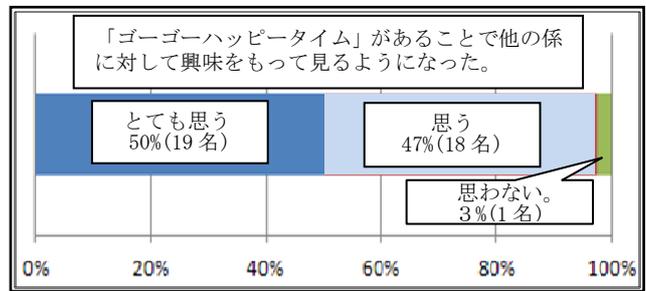


図4 アンケート結果

ほめほめ感謝カードの記述では、他の係のよいところを具体的に書いたり、楽しかったことや面白かった気持ちを書いたりして、他の係を褒め、感謝の気持ちを伝えていることが分かる(資料1)。

- ・ 毎日アンケートご苦労様です。新聞もちゃんと作っていて、いいと思います。
- ・ 字が大きくなって、とっても読みやすくなりました。
- ・ 先生の誕生日に企画してよかったと思います。大成功で、HAPPYな気持ちです♡
- ・ この前のハロウィンパーティー楽しかったです。1年生との交流会も楽しかったです。
- ・ いつも楽しい記事をありがとう。マンガもとてもおもしろいよ。これからもよろしく！

資料1 ほめほめ感謝カードの記述例 具体的に書かれているところに下線

(イ) 話し合い活動と実際(「係活動、再出発！」)

11月にそれまでの2か月間の活動を振り返り、活動内容の変容に気付いたり、それを褒め合ったりすることや、共感したうれしさや楽しさをその後の活動につなげるために、学級活動(2)「係活動、再出発！」を行った。

まず、この話し合い活動の事前の活動として、それぞれの係に2か月間の活動の流れと活動内容を変えていった経緯について、模造紙にまとめさせた。それを基に、話し合いの柱1「各係の成長を発表しよう。」で、それぞれの係に発表させた。music係は、「みんなが知っている歌にしてください」という要望を受けて、アンケートを行って歌を決めていることから、メッセージカードの影響を受けて活動を変化させていったことが分かる(図5)。他の係も同じように成長を発表した。

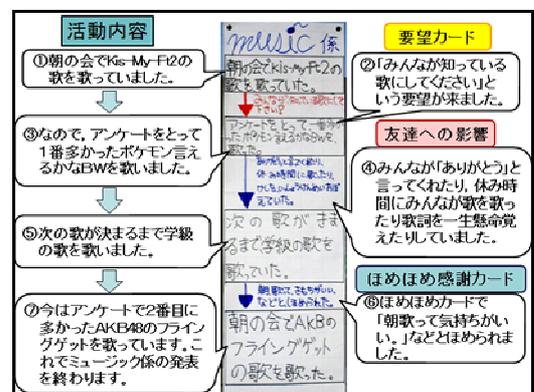


図5 柱1の発表例(music係)

柱2「友達の成長をほめ合おう。」で、係活動における友達の2か月間の変容に気づき、「最初は何もしていなかったのに、…たくさんの活動ができた」など、違いを具体的に示し発表していた(資料2)。他の系の成長を認めることができたことが分かる。

- ・ ゴーゴーハッピー係さんは、最初は何もしていなかったのに、議題を決めたりニコニコマークのメダルを作ったり、サプライズをしたりと、たくさんの活動ができたので、成長していると思いました。
- ・ ランキング係は、前よりみんなの意見を聞き、みんなが見て、楽しくなるようなランキングを作ってくれていると思います。
- ・ ゴーゴークイズ係が、みんなの要望にこたえ、クイズを2間にしたり難しいクイズをしたりしたので成長しているなと思いました。

資料2 柱2「友達の成長をほめ合おう。」の発表 変容に気付いたと捉えるところに下線

柱3「係活動をしてうれしかったり楽しかったりしたことを伝え合おう。」で、それぞれが体験を伝え合った(図6)。発表内容は主に2つに分けられる。1つは、「ほめほめ感謝カードで褒められた」といった、褒められたときのうれしさが分かる内容で、もう1つは、「クイズを一生懸命答えてくれたとき楽しかった」といった、係活動にみんなが応えようとしているのが分かったときの楽しさが分かる内容であった。柱3を通して共感できたこの2つは、働き掛けられる側の目標づくりのヒントになる。

最後に、自己の目標を立てさせた。働き掛けられる側の自己の目標は、2つの内容に分かれた。1つは「他の系のよいところを探そう」といった、よいところを見つけて褒めようとする内容で、もう1つは「よく聞く」や「アンケートにはくわしく答える」といった、働き掛ける側に協力しようとする内容である(図6)。

2週間の子どもたちの実践活動で「他の系のよいところを探そう」という目標を立てた子ども18名全員が、「他の係が活動しやすいように協力しよう」という目標を立てた子ども20名のうち19名が、目標を達成しようとしていた(表2)。目標を達成しようとした子どもが多かったことから、相手意識をもって、認め合う態度を育成することができたと考えられる。

(ウ) 検証の結果と考察

1学期までの係は、係から学級集団に自分の主張を伝えるだけの一方通行の活動であった。朝の取組をすることで、それぞれが係に対して興味をもって見るようになり、ほめほめ感謝カードで褒めたり感謝の気持ちを伝えたりするようになった。働き掛ける側の係も、活動内容を学級集団のためになるような活動に変えていった。このことから、係と学級集団に相互の関係ができ、互いを認め合う子どもを育成することができたと考えられる。

「係活動、再出発！」の柱1・2の発表内容に、2か月間の成長を褒め合う意見が出てきた。また、柱3でうれしかったことや楽しかったことを伝え合うことにより、みんなが「褒められると誰もがうれしい」や「みんな(学級集団)が係活動に応えようとしているときは楽しい」という気持ちを共感することができた。それを意識して働き掛けられる側の自己の目標を立て、その目標の達成に向けて取り組むことは、他者を認めることにつながる。多くの子どもたちが目標の達成のために取り組んだことから、話し合い活動の前より、互いを認め合う子どもを育成することができたと考えられる。

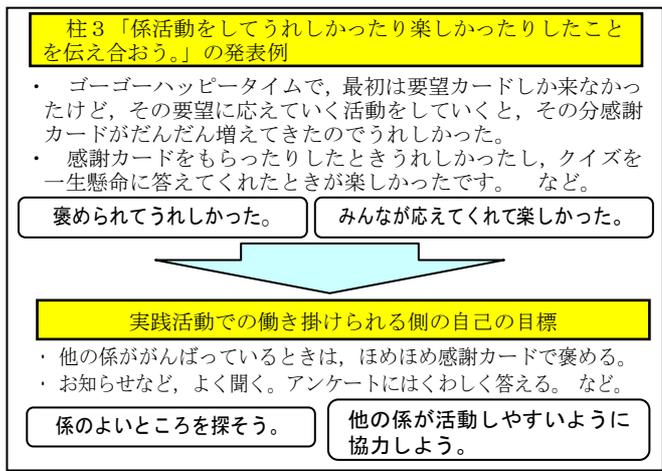


図6 柱3と自己の目標の関わり

表2 自己の目標に向けての取組

目標の内容	人数(名)	目標を達成しようとした人数(名)	目標を達成しなかった人数(名)
係のよいところを探そう。	18	18	0
他の係が活動しやすいように協力しよう。	20	19	1

ウ 学級生活を豊かにする児童の育成(視点Ⅱ)

(ア) 話し合い活動を通して(「グレードアップ, 係活動!」)

3学期最初の話合い活動「3学期の係活動を決めよう」で, 新しい係4つを含む10の係が決定した(図7)。

「3学期の係活動を決めよう」の1週間後, 「グレードアップ, 係活動!」を計画した。「グレードアップ, 係活動!」の柱1で, それぞれの係の活動計画を見て, メッセージカードで気付いたことや思いを伝え合わせる。そこで, 事前の活動として, ①活動計画の作成すること, ②活動計画を模造紙に書き, 教室に掲示すること, ③休み時間に全部の係の活動計画に目を通しておくこと, に取り組ませた(図8)。

「グレードアップ, 係活動!」では, 活動計画や1週間の他の係活動を振り返り, メッセージカードで気付いたことを伝え合った。あらかじめ活動計画を見ていたこともあり, 子どもたちは7分間で118枚のメッセージカードを書いた。

アドバイスカードと要望カードには, 「バースデーカードを飛び出すカードにははどうか」や「アルバムを作ってはどうか」など, 当初の活動計画にはない学級生活をより豊かにするアイデアが書き込まれていた(資料3)。

柱3「係ごとに活動内容を考えよう。」では, 子どもたちは友達からのアドバイスカードや要望カードを参考にしていた。そして, 自分たちの活動計画を見直しなが, 学級集団のためになるアイデアを取り入れ, 学級生活をより豊かにできる活動を考えることができた。

最後に, 柱4「活動内容を発表しよう」では, 各係が今後の活動を発表した。GO!GO!バースデー係は, 飛び出すバースデーカードの作成に取り組んでいくことにしている。その理由を「もらった人がもっと喜ぶように」と発表していた(資料4)。

メッセージカードの内容を, もらった人の喜びという観点で考え, 実行するように決めたことは, 学級生活を豊かにしようとする態度が育成されたと考える。

(イ) 朝の取組のアドバイスカードと要望カード, ほめほめ感謝カードを通して

係がアドバイスカードや要望カードをもらうことで, 学級集団の思いが分かる。係はそのメッセージの内容を基に, 学級生活を豊かにしようとする活動内容を見直したりアイデアを取り入れたりして, 次の活動に取り組んでいった。その活動が学級集団の満足度を高め, 係はほめほめ感謝カードで褒められたり感謝の気持ちを伝えられたりする。それが, 学級生活を豊かにしているという実感となり, 更に学級生活を豊かにしようとする意欲につながったと考える(次頁図9)。

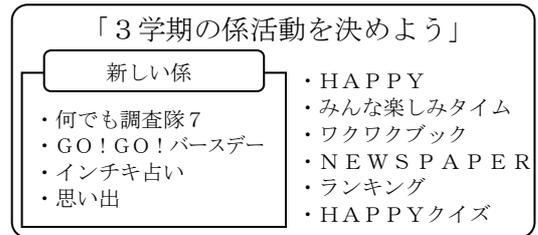


図7 3学期の係活動

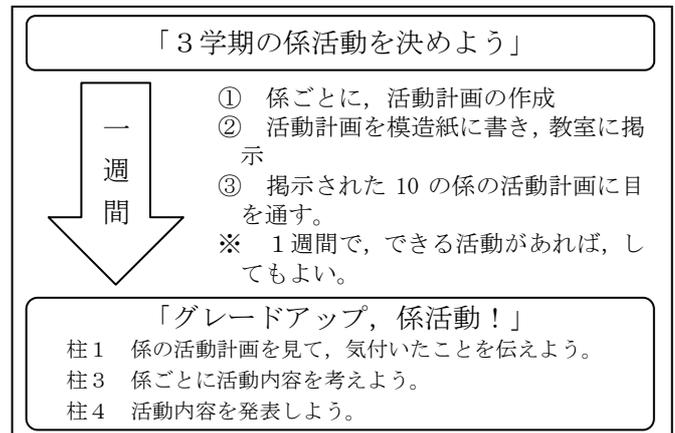


図8 「3学期の係を決めよう」から1週間の活動と「グレードアップ, 係活動!」の柱

- ・(GO!GO!バースデー係へ)バースデーカードを飛び出すカードにしたらどうですか?
- ・(思い出係)学級の思い出を, 1週間から1か月の間でアルバムのようにしたり, 写真をとってはったりしたいと思います。
- ・(ランキング係へ)みんなが楽しみにしているものなので, 楽しいものを書くといいと思います。

資料3 柱1のメッセージの記述

2週間に1回バースデー通信を発行することと, 飛び出すバースデーカードをプレゼントすることです。バースデーカードを飛び出すものにしたのは, 友達からの意見で, 「飛び出すものにしたらもっと喜ばれる」という意見があったからです。そして, これから, 誕生日を楽しみにし, 喜べる学級にしたいです。

資料4 柱4のGO!GO!バースデー係の発表

また、3学期は、38名中37名が3学期に編成された係に期待をもっていることがアンケートで分かった。それをみんなに伝えると、期待されていることが「うれしい」または、「頑張りたい」と前向きに回答した子どもは35名(1名が「少し不安」、2名欠席)であった。期待されたことに対して、多くの子どもがそれに応えたい気持ちをもっていたことが分かる。表3は、1・2月の各係の活動内容である。新しい活動や学級生活をよりよくする工夫を取り入れながら、進んで学級生活を豊かにしようとしたことが分かる。

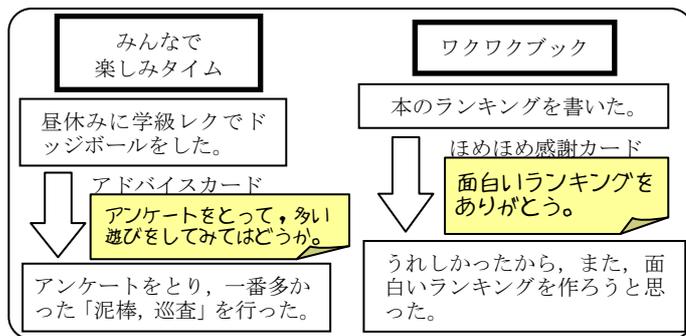


図9 メッセージによる活動の変容

表3 1・2月の各係の活動内容 新しい活動や学級生活をよりよくする工夫は下線、頑張りが分かる活動は波線

係名	1・2月の活動内容など
何でも調査隊7	調査ポストを設置。学級の鉛筆の数・非常ベルの数・5年生の廊下の長さなどを調査し、報告。
GO!GO!バースデー	GO!GO!誕生日通信。芸能人の誕生日の紹介。飛び出すバースデーカードを誕生日の全員に送る。
インチキ占い	占い通信を22号発行。髪型占い・相性占い・スポーツ占い・個人占いなどを記載。
思い出	デジカメで学級の様子を撮り、アルバムを2冊作成。3冊目を作成中。
HAPPY	学級会の議題を募集。メダル・賞状の作成。メダルを星形に、賞状の文字を立体的にして、工夫をしている。
みんなの楽しみタイム	学級レクの進行。要望により、バスケットボール・泥棒、巡査・ドッジボール・王様ドッジボールを行なった。
ワクワクブック	週に1回さわやか文庫を借りている。伝記を借り、有名な人紹介特集。アンケートで本のランキングの作成。
NEWSPAPER	32号の新聞を作成。「みうみうコーナー」など、各種の情報コーナーが人気。
ランキング	アンケートを基にランキングを6号発行。みんなに要望を聞いて、何のランキングを調べるか決定。
HAPPY クイズ	週3回「係から」でクイズを出す。要望に応え、難しい問題も出している。なぞなぞを印刷して配布(7枚)。

3学期はメッセージカードに変化が見られた。その1つに、思い出係が写真を撮る活動をしていなかったとき、ほめほめ感謝カードで「どんな思い出を写真にとってまとめてくれるか、楽しみにしています」と期待感が伝えられていたことが挙げられる。2学期までは、係の活動に対してアドバイスや要望が多く出されていた。しかし、3学期は活動を開始していなくても、今後してくれるだろうと思われることに対して、活動を見越した期待を表現しているのである。

アンケートで期待感をほめほめ感謝カードに書く理由を聞いた。「3学期の係活動は、それ以前より期待感があるから」は全員が「とても思う」や「思う」と答え、「みんなが頑張っていることが分かるから」は55%(21名)が「とても思う」、42%(16名)が「思う」、3%(1名)が「思わない」と答えた(図8)。このことから、それぞれの活動に期待し、頑張りを認めることが、今後の活動への期待につながっていることが分かる。

メッセージカードの枚数の変容を見ると、ほめほめ感謝カードの枚数は増加傾向にある(図9)。「グレードアップ、係活動！」後、学級集団が係を期待し、係がその期待に応えようという思いで活動してきた。同じ時期に、ほめほめ感謝カードが増えていることから、その活動に対してメッセージを送っていることが分かる。ほめほめ感謝カードの増加は、もらった係の喜びも大きくする。それを次への活動意欲にしながら、学級生活を豊かにしようとしていったと思われる。

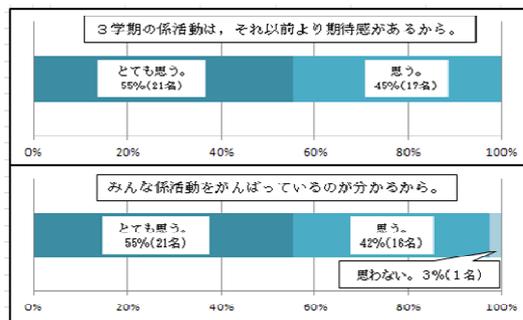


図8 3学期にほめほめ感謝カードで期待感を書く理由

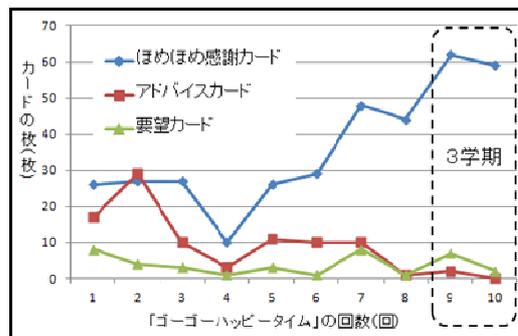


図9 メッセージカードの枚数の変容

#### (ウ) 検証の結果と考察

朝の取組と話し合い活動を通して、互いに気付いたことや思い、アイデアを伝え合うことで、係の活動を見直すことができ、その後の活動に生かすことで学級生活を豊かにすることができた。

「ゴーゴーハッピータイム」のほめほめ感謝カードは、互いを認め合うための手立てであった。しかし、ほめほめ感謝カードをもらうことで、友達に認められたことからのうれしさや、自分たちがしてきた活動がよかったということを実感することができることは、次への活動意欲につながった。また、3学期は、係に対しての期待感やみんなが係活動を頑張っていることに対して、今後を楽しみにする雰囲気が学級に広がった。期待をほめほめ感謝カードで伝えることで、係は活動意欲を更に高める。このことが、学級生活を豊かにしようとするにつながっていると考えられる。

## 7 研究のまとめと今後の課題

### (1) 研究のまとめ

係活動において、朝の取組と話し合い活動を通して、次のようなことが明らかになった。

- ・ 係から学級集団に自分の主張を伝えるだけの一方通行であったが、朝の取組をすることで双方向の活動になった。それにより、一人一人が他の係に対して興味をもって見るようになった。また、ほめほめ感謝カードで係のよさや頑張りを褒めたり感謝の気持ちを伝えたりするようになった。これらから、朝の取り組みは、互いを認め合う子どもの育成に有効であった。
- ・ 話し合い活動を通して、自他の成長を感じたり、係活動を通してのうれしさや楽しさを共感したりすることができた。また、それを基に自己の目標を立てて取り組むことで、より他の係のよいところを褒めたり係の活動に応えたりする態度が見られるようになった。これらから、話し合い活動は、互いを認め合う子どもの育成に有効であった。
- ・ アドバイスカードや要望カードを使った朝の取組を通して、係は友達の気付いたことや思い、アイデアを聞くことができ、それを参考にした活動をすることで学級生活をより豊かにすることができた。朝の取組は、学級生活を豊かにしようとする子どもの育成に有効であった。
- ・ 話し合い活動を通して、友達からアドバイスや要望をもらうことで、活動の幅を広げることができた。また、友達からの期待を前向きに受け取り、その期待に応えようとして係活動が活性化した。話し合い活動は、学級生活を豊かにしようとする子どもの育成に有効であった。

### (2) 今後の課題

数人が、仲のよい友達と一緒に同じ係になりたいという理由で係を決めていた。係活動を、誰とでもよりよい人間関係を築くことができるための集団活動の場にするために、仲のよさではなく自分の持ち味で係を決定できる方法を考えることが課題である。

9月から、係という小集団活動、そして、係が学級集団に働き掛けながら行う集団活動を、伝え合う活動を関連させながら行ってきた。その結果、集団活動のよさや喜びを感じることができた子どもが増えた。今後、クラブ活動や委員会活動など、他の集団活動につなげていくことが課題である。

#### 《引用文献》

- 1)2) 杉田 洋 『よりよい人間関係を築く特別活動』 2009年12月1日 p.93, p.95  
3) 宮川 八岐 『子を生かす集団活動と学級文化の創造』 平成9年8月8日 p.72

#### 《参考文献》

- ・ 中央教育審議会 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)』 平成20年1月
- ・ 文部科学省 『小学校学習指導要領特別活動編』 平成20年8月
- ・ 稲垣 孝章・吉沢 猛 『係活動 早わかり』 2008年2月 小学館